

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立 橋北中 学校

校長 山内 雅喜

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

～地域の子どもは、地域が育てる～

コミュニティスクールは、保護者、地域の皆さんと本校の「学校づくりビジョン」を共有し、力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組みです。

コミュニティスクールでは、学校運営に地域の声を積極的に活かし、地域と一体となって学校づくりを進めることで、教育目標である「あなたらしく、あたらしく」の実現を図ることをねらいとしています。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

本校の運営協議会は、今年3年目を迎える間5回の会議が持たれました。一小一中で成り立つ橋北地区の現状や、小規模校ならではの利点をいかに活かしながら学校・地域・家庭が連携していけるのかという視点を大切にしながら、地域の様々な立場の方に委員となっただき貴重なご意見を頂くことができました。



また、本年度においては、感染症対策も緩和されたこともあり、中学校での地元消防団を中心とした防災体験学習、校区内の事業所の協力を得ての職場体験学習、地域の方を招いての出前授業、コミュニティスクールとPTAが協力して行ったグラウンドの草取りなどを実施するとともに、生徒が地域の行事にボランティアスタッフとして参加するなど、学校と地域が相互に手を取り合い、地域に根差した子どもたちの育成のため、交流の機会を多くもつことができました。

(1) 教育活動の実践事例

【あいさつ運動及び登校指導】

徒歩通学者の多い子どもたちの朝の登校時の見守りや、「おはよう」で始まる朝の声掛けなど、PTAとの連携のもと、ご協力いただきました。



【職場体験学習への協力】

地元での職場体験学習受入事業所の紹介をお願いしました。子どもの数が減ってきている今だからこそ、今後、郷土を誇りに思い、地元を愛する子どもが育つよう、地域に根差した産業を軸に置いた、新たな受け入れ先の開拓にご協力いただきました。



【地区市民センターとの連携による防災教室】

橋北地区では、防災活動に力を入れています。5月、地区市民センターとも連携を取りながら、防災教室を開催しました。仮設トイレの設置や、消火器訓練、放水訓練をそれぞれの学年に分かれ、体験させていただくことができました。また、11月、地区からの要請もあったことから、橋北小学校の防災学習にボランティアスタッフとして、有志生徒を募り、アシスタントとして協力することもできました。



5月橋北中学校での防災教室・訓練



11月橋北小学校での防災学習ボランティア

【コミュニティスクール委員会を中心とした校内整備作業】

小規模校の課題として、生徒と職員だけではグラウンドの除草が追い付かない状況であったため、コミュニティスクールの提案により、PTAと地域がタイアップして、グラウンドの除草作業を計画することができました。地区市民センターや各自治会の協力も得て、9月の体育祭前にグラウンドの除草と整備が実施され、生徒たちも良好なグラウンドコンディションの中で体育祭を行うことができました。また、体育祭には、コミュニティスクールの委員の方にも参観していただきました。



【地域人材を活用した学校教育の推進（ゲストティーチャーの活用）】

ここ数年、本校の卒業生でもある、四日市高校前校長の松岡泰之さんに、2年生を対象としたキャリア学習「将来の仕事に向けて必要な力とは」と題し、講演をいただいています。子どもたちにとって近い将来である高校生活についても詳しくお話いただきました。

【地区市民センター館長への「地域の在り方」のプレゼン】

2年生社会科の「地域の在り方」の単元の学習で、子どもたちが地域の課題を見つけ、その原因と解決策を考察し構想する授業を行いました。その際、地区市民センターの館長に対して、子どもたちは構想したアイデアをプレゼンし、館長に講評していただきました。また、文化祭、授業公開の際、コミュニティスクール委員や民生児童委員をはじめ地域の方々にも、子どもたちの追究のまとめを見ていただくことで、橋北地区をよりよくしたいという子どもたちの思いを発信することができました。



【地域行事との連携（橋北ごちゃまぜ祭り・橋北地区マルシェ・橋北ミュージックフェスティバル）】

本年度は、感染症対策が緩和されたこともあり、文化祭の翌日の10月30日（日）に初の試みとして、橋北ごちゃまぜ祭り、橋北地区マルシェが中学校運動場で、橋北ミュージックフェスティバルが体育館で開催されました。地区の開催主催者からの要望で、橋北ごちゃまぜ祭りのボランティアスタッフに有志生徒が参加し、地域行事の一役を担うことができました。また、橋北ミュージックフェスティバルの主催者からも中学校への協力の要請があり、本校のPTAが協力しました。

地区市民センターや実行委員会との連携のもと、こうした地域行事がきっかけとなって、今後も学校、地域、子どもたち、保護者を繋げていくものとして根付いていくよう、コミュニティスクールとしての役割を再確認することができました。



橋北ごちゃまぜ祭り



橋北ミュージックフェスティバル

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

コミュニティスクールの取組による全体への効果としては以下の通りです。

本年度は感染症対策の緩和により、コミュニティスクール委員の方々にも、学校や生徒を見に来ていただく機会が増えました。また、地域行事も例年通りに行われ、生徒

が地域と関わる機会も増えました。学校と地域、生徒と地域、家庭と地域といったように、生活の場となる地域が重要な役割を果たしていることを確認する1年間となりました。コミュニティスクール委員の方からも、学校、家庭、地域は1つのチームという印象が強く、そのチーム力が高まることで、生徒の自己肯定感などを向上させることに繋がるというご意見をいただきました。

また、今年初めて、コミュニティスクールの声かけで地域とPTAを巻き込んだグラウンドの除草作業を実施しましたが、その結果、生徒たちは良好なコンディションで体育祭を行うことができました。そこから、生徒の中には、地域に恩返しをしたいという思いが現れ、地域清掃を企画したいという声があがりました。企画の甘さから実現はしなかったものの、地域のために自分たちのできることをしたいという思いを育むことができました。また、防災学習や職場体験学習、ゲストティーチャーを招いての授業から、地域の協力によって自分たちの学習が成り立っていることを実感した生徒たちが、コミュニティスクールを通して依頼のあった地域行事のボランティアスタッフとして参加する姿もあり、地域の一員としての自覚や地域貢献について考えるきっかけとなりました。

3 今後に向けて

本年度も、コミュニティスクールの協力のもと、子どもたちの教育活動を充実させることができ、一定の成果を得ることができましたが、まだまだ生徒たちのお客様感からは脱していないように感じています。本年度は地域からの要請で、ボランティアスタッフとして地域行事等に参加することはできましたが、来年度、例えば橋北マルシェに、生徒が1つのブースを企画し運営したり、本年度企画倒れとなった地域清掃を実現したり、生徒から主体的に地域に発信できるような機会を、コミュニティスクールを通して実施していきたいと考えています。そのような自発的な活動を通して、子どもたちの地域愛を育み、地域で生活する一員としての自覚を促しながら、橋北中学校コミュニティスクールならではの協働性や連携を構築していきたいと考えています。

また、コミュニティスクール委員の方からいただいたご意見として、地域の人が訪問しやすい学校、地域の人にとって居心地のよい学校となるよう、学校自体の在り方も模索していく必要を感じています。